

2016年7月参議院議員選挙を終えて

7.15 三好康昭

一、選挙結果

(1)「与党大勝、野党敗退」は本当か。

3年前参議院選挙で自民党は65議席を得た。今回は56議席だから、-9議席。公明党は議席を増やした(11→14)が、自公を合わせた議席は70で、前回の76議席よりも6減った。連立与党は議席を減らした。民進党が獲得した32議席は、6年前の議席=改選議席(43)より減ったが、3年前の獲得議席(17)からは大幅に増やした。共産党は3年前の8議席から6議席に減った。しかし、改選議席3を倍増させた。よって、3年前の前回選挙を基準にすれば、「与党大勝、野党敗退」は事実と反する。

7月11日 月曜日 享月

参議院党派別の新勢力		新勢力	公示前比	当選者	改選議席	選挙区	比例区
自民	民進	121	+8	56	50	37	19
公明	明産	49	-11	32	43	21	11
共同	産新	25	+5	14	9	7	7
維新	新活	14	+3	6	3	1	5
こ	ろ	12	+5	7	2	3	4
社	民	3	±0	0	0	0	0
生	気	2	-1	1	2	0	1
元	革	2	-1	1	2	-	-
改	派	2	-1	-	1	-	-
諸	属	0	-1	0	1	0	0
無		1	±0	0	0	0	0
所		11	-3	4	7	4	-
計		242		121	121	73	48

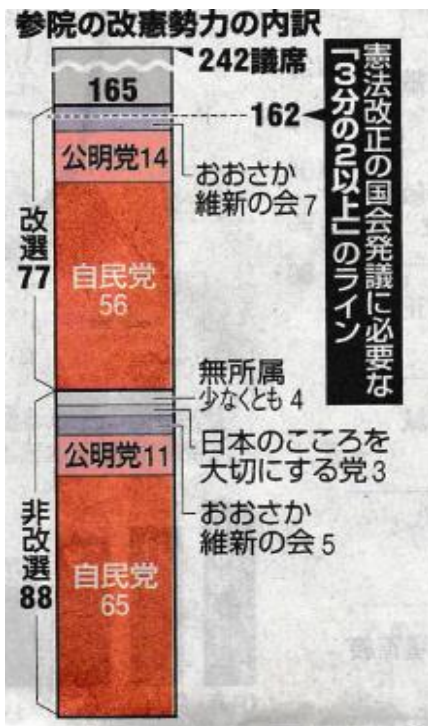
非改選を含めた定数242。議席は自民、副議長は民進、民進党には追加公認が発表された1人(無所属)を含む。

(2)野党共闘

民進党が改選議席からの落ち込みを最小限にとどめた一番の要因は、一人区での野党共闘が功を奏した結果だ。一人区の32選挙区で、前回は2議席、今回は7議席を獲得した。無所属を含めた野党統一候補は11選挙区で勝利した。民進党が当面生き残る道は野党共闘に活路を見いだすしかない。共闘成立に尽力した岡田代表を降ろすのは自殺行為だ。問題は民進党以外の野党にとって、共闘の成果が上がったかどうかだ。その点で、一人区で候補者を降ろした共産党が、その選挙区で**比例投票獲得数**を伸ばしたかどうか注目される。当該選挙区で前回獲得した得票数の全体に対する割合を基準にして、今回得た得票数の割合との増減を調べてみた。その結果、前回よりも1%以上得票を増やした選挙区が16あり、逆に0.5%以上減った選挙区は6だった。残り10選挙区はこの間であって、大きな変動がない。この結果からみると、候補者を降ろした共産党にとっても、共闘の成果はあったとみることができる。よって、共産党を含め、野党四党は今後も共闘路線をとると予想される。

しかし、野党第一党の民進党だけが得をするような野党共闘は長続きしない。他の野党も得するような共闘のあり方を探る必要がある。小沢一郎が提唱しているオリーブの木方式(統一名簿方式)も有力な選択肢だ。

(3)改憲勢力



自公に大阪維新など改憲に積極的な政党の議席数は161.これに無所属の改憲派4人を加えると、165議席となって、全体の2/3(162議席)を超えこる。が、これをもって単純に改憲派の勝利とはいえないだろう。連立与党の公明党は改憲に慎重だ。国会の憲法審査会の議論は活発になり、改憲派が議論をリードすることになるだろうが、改憲条文が確定するまでにはまだまだ時間がかかる。そのうちに衆議院の解散もあって、議席数は変動する。今回の選挙結果によって、国会がただちに改憲に向かうわけではなく、改憲の動きが現実味を帯びた、といった程度に見ておくのが妥当ではないかと思う。私見では、公明党の動向もさることながら、民進党の改憲派(前原や細野)がどう動くかが、改正の発議が成立するかどうかのポイントになるのではないかな。

二、支持層の分析

(1) どのような人たちがどういう理由で自民党に投票するのか。

(A) 固定的支持層

① 後援会等に組織化された人たち

a) 国会議員個人の後援会とその血縁者。

b) 系列の県議・市町村議員の後援会に入っている人と血縁者。

②) 政治意識は鋭くない。現状を肯定し、変化を望まない人たち。「何となく」保守の人たち。ぶ厚い層として存在する。

➡ この人たちは、必ずしも憲法改正を望んでいない。

③) 政治意識の高いエスタブリッシュメント。地方の有力者…経済・軍事のグローバル化を支持し、これを推し進めることに利害もつ。

➡ 改憲にもっとも積極的。

(B) 浮動層

① 現状に不満を持ちながら、他の選択肢がないために政権党を支持する。何とかしてくれることを期待して。

② 若者層…現状に満足しているわけではない。むしろ、現在および将来の生活に不安を持っている。不安な心理から、庇護・保護を



求めて政権党を支持する。右のグラフをみると、若い世代は他の世代に比べて政権与党の支持率が高い。

(2) どのような人たちが、どういう理由で野党に投票するか。

(A) 固定票

- ① 政治意識が高く自民党の政策に基本的に反対する。確信犯。
- ② 労働組合員。しかし、組織労働者は絶対数でも割合でも減少しつつある。

(B) 浮動層

現在の生活の苦境から脱することを願う、貧困層。

➡ 不満の受け皿となるビジョンを野党が提示できるときは野党に投票するが、諦めや失望から棄権にまわる人たちの方が多そうだ。

三、野党支持層を広げるために

今回の選挙では、政権与党が意図的に憲法改正を争点としなかったため、憲法問題と投票活動とはリンクしなかった。国民の憲法意識と国会の議席とは「ねじれ現象」を起こしている。憲法改正反対勢力が国会で議席を増やすにはどうするか。第一は、自民党の固定的支持層のうちの、「現状の変更」を望まない「何となく保守」の人たちに、憲法改正を焦点に野党支持を働きかけること。例えば、「2000万署名」の取り組みのように。第二は与野党の間を動く浮動層の中の、現状に不満を持つ人たちに希望を与えるビジョンを示すこと。新自由主義とは異なる「もう一つの道」をはっきり打ち出すこと。民進党をはじめとする野党四党の政策立案力を高めること。こうした人たちが、生活実感から憲法をわがこととしてとらえることが出来れば、憲法改正問題と投票先とがリンクすることになるだろう。

野党共闘が成果を上げたことによって、地方選挙でも野党四党による共闘が組まれるケースが増えるだろう。都知事選挙はこの方式で動き出している。私見では、この動きを党首間の選挙協力で終わらせないことが大事だと思う。地方でも同様の動きを作っていく。選挙の時だけでなく、平時でも協力して運動に取り組むこと。例えば、月一度の「19日行動」を四党支持者が協力して行う。そのための枠組み作りに着手することが今必要だと思う。

(以上)